

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 22 年 3 月 18 日 (2010.3.18)

【公開番号】特開 2008-205620 (P2008-205620A)
 【公開日】平成 20 年 9 月 4 日 (2008.9.4)
 【年通号数】公開・登録公報 2008-035
 【出願番号】特願 2007-36814 (P2007-36814)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 5/232 (2006.01)

H 0 4 N 5/91 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/232 Z

H 0 4 N 5/91 J

【手続補正書】
 【提出日】平成 22 年 2 月 1 日 (2010.2.1)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

画像信号を順次出力する撮像手段と、

前記撮像手段から順次出力された画像信号から、時間的に連続した L (L は、3 以上の整数) フレームの画像信号のうちの互いに時間的に連続しない M (M は、L より小さくかつ 2 以上の整数) フレームの画像信号を加算して動画像用画像信号を生成する第 1 の加算手段と、

前記 L フレームの画像信号のうちの互いに時間的に連続した N (N は、L より小さくかつ 2 以上の整数) フレームの画像信号を加算して静止画像用画像信号を生成する第 2 の加算手段と、を有することを特徴とする撮像装置。

【請求項 2】

撮像手段から順次出力された画像信号から、時間的に連続した L (L は、3 以上の整数) フレームの画像信号のうちの互いに時間的に連続しない M (M は、L より小さくかつ 2 以上の整数) フレームの画像信号を加算して動画像用画像信号を生成する第 1 の加算工程と、

前記 L フレームの画像信号のうちの互いに時間的に連続した N (N は、L より小さくかつ 2 以上の整数) フレームの画像信号を加算して静止画像用画像信号を生成する第 2 の加算工程と、を有することを特徴とする撮像装置の制御方法。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 5】

上記の目的を達成するため、本発明の実施形態に係る撮像装置は、
 画像信号を順次出力する撮像手段と、

前記撮像手段から順次出力された画像信号から、時間的に連続した L (L は、3 以上の整数) フレームの画像信号のうちの互いに時間的に連続しない M (M は、L より小さくかつ

つ2以上の整数)フレームの画像信号を加算して動画像用画像信号を生成する第1の加算手段と、

前記Lフレームの画像信号のうちの互いに時間的に連続したN(Nは、Lより小さくかつ2以上の整数)フレームの画像信号を加算して静止画像用画像信号を生成する第2の加算手段と、を有することを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

上記の目的を達成するため、本発明の、さらに他の実施形態に係る撮像装置の制御方法は、

撮像手段から順次出力された画像信号から、時間的に連続したL(Lは、3以上の整数)フレームの画像信号のうちの互いに時間的に連続しないM(Mは、Lより小さくかつ2以上の整数)フレームの画像信号を加算して動画像用画像信号を生成する第1の加算工程と、

前記Lフレームの画像信号のうちの互いに時間的に連続したN(Nは、Lより小さくかつ2以上の整数)フレームの画像信号を加算して静止画像用画像信号を生成する第2の加算工程と、を有することを特徴とする。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】削除

【補正の内容】